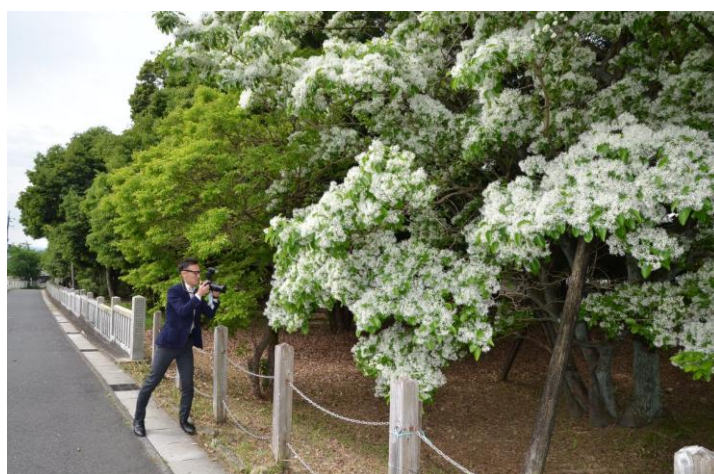


白山神社のヒトツバタゴが満開に【国指定天然記念物】

金幣社「白山神社」（土岐市泉中窯町・水野荘治宮司）のヒトツバタゴが、満開を迎えた。雪が降り積もったかのように、新緑の樹上を、白い花が覆っている。



白山神社のヒトツバタゴは、「[白山神社のハナノキ及びヒトツバタゴ](#)」として、昭和18（1943）年2月19日に、「国指定天然記念物」の指定を受けた。

白山神社の境内（敷地）のうち、「泉中窯町1丁目3番」地内に自生している、すべてのヒトツバタゴが、指定の対象。

本日現在、8本中2本が、満開になった。



ヒトツバタゴは、モクセイ科の落葉高木で、別名「ナンジャモンジャ」と呼ばれている。自生地があるのは、岐阜県の東濃地方・愛知県の木曽川流域・長崎県の対馬のみと、いわれている。[白山神社](#)では、東濃地方を代表する2種類の木、「ハナノキ」と「ヒトツバタゴ」が、狭い範囲で生育しており、極めて珍しかったが、[ハナノキ](#)の方は、平成19(2007)年6月に、枯死(こし)が確認された。





白山神社の水野荘治宮司は、「今年の開花は、例年に比べ、1週間程度、早かった。既に、散りかかっているところもあり、見ごろは、今週末までだろう」と話した。

問い合わせは、白山神社（TEL 0572-55-3771）または、土岐市教育委員会・文化振興課（TEL 0572-54-1111・内線556）まで。

白山神社のハナノキ及びヒトツバタゴについて

平成 30 年 5 月 2 日 土岐市教育委員会文化振興課

名 称 白山神社のハナノキ及びヒトツバタゴ

所 在 地 岐阜県土岐市泉中窯町一丁目 3 番
白山神社境内 内実測 251 坪 (約 829.75 m²)

種 別 天然記念物

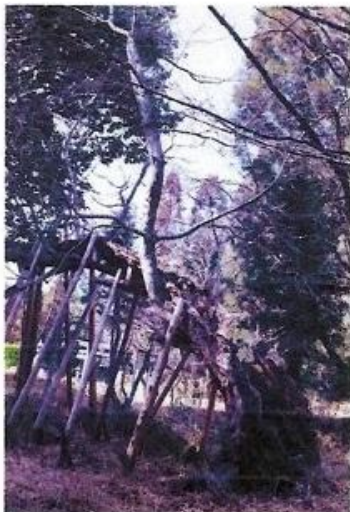
指 定 日 昭和 18 年 2 月 19 日

概 要 ハナノキはカエデ科に属し、長野県・岐阜県南部・愛知県北東部にのみ生息しています。4月に赤い花を咲かせます。ヒトツバタゴはモクセイ科に属し、別名「ナンジャモンジャ」と呼ばれています。長崎県対馬・岐阜県東濃・愛知県木曾川流域にのみ生息しています。5月頃に雪が積もったかのような白い花を咲かせます。いずれも環境省レッドデータブックの絶滅危惧Ⅱ種に指定されています。

この天然記念物は昭和 18 年 2 月 19 日に指定され、樹齢千年といわれるハナノキとヒトツバタゴの巨樹が共生する貴重な植生状態を誇ってきました。

しかし、環境の変化とともに、ハナノキは樹勢が衰え続けたのち平成 19 年に枯死しました。近年ヒトツバタゴも枯死する個体が増えています。

土岐市としては、この天然記念物を長く遺していくため、両者の日常管理を行うとともに環境の整備を行い、ヒトツバタゴの樹勢回復及び増殖、およびクローンとして別所で育成しているハナノキを元の位置に移植することを目指しています。



ハナノキ (平成 4 年撮影)



ヒトツバタゴ (平成 29 年撮影)